

食我黍無食我麥無食我苗嘉穀謂禾也苗嘉穀也嘉穀謂禾也生民傳曰黃嘉穀也嘉穀亦謂禾也呂二月
始生八月而熟得之中和故謂之禾依思元賦注齊民禾木也木王而生今王而死也伏生淮南子劉

向所著書皆言張昏中種穀呼禾爲穀從木故木也象其穗增四字不通今正下從木上筆承者象其
思元賦注引此下有故曰禾四字從木故木也象其穗增四字不通今正下從木上筆承者象其

穗是爲禾木而象其穗禾穗必下垂淮南子曰夫子見禾之三變也稻稻然曰孤向丘而死我其首禾
平高注云禾穗垂而向根君子不忘本也張衡思元賦曰嘉禾垂穎而顧本王氏念孫說莠與禾絕相

似雖老農不辨及其吐穗則禾穗必屈而倒垂莠穗不垂可以識
別艸部謂莠揚生古者造禾字屈筆下垂以象之戶戈切十七部

〔農政全書〕二十五 梁爾雅云 梁赤苗 苞白苗 郭璞注曰 梁也穀之良者曰梁 谷之良者曰梁 陶弘景曰
遠東赤梁蘇恭曰 梁雖粟類細論則別黃梁出蜀漢閩浙間穗大毛長穀米俱麗人號竹根黃白梁穀
甌扁長不似粟圓也青梁穀穗有毛而粒微青早熟而收瀕止堪作餉耳王禎曰 赤白梁其禾莖葉似
粟粒差不食與粟同時熟

〔日本釋名〕粟 大穗也 穗の大なるものなり おとあ と通じ ほとは と通ず 中を略す 一説に五
穀の内にて味淡きゆへに名づく

〔東雅〕粟アハ○中 舊事紀に 粟黍は保食神の胸より生しと見え 古事記には 大宜津比賣神
の耳より生しと見えたり アハといひ キヒと云義は不詳 按ずるに アハとは アワ也 ハとワとは

通はしてかく事 萬葉抄にも見えたり アといふは小也 日本紀釋に アを小と釋せし是也 ワとい
ふは丸也 古語に凡物の圓かなるを呼てワといふなり 古事記萬葉集等に 丸の字讀てワといひ

し是也 其實の小しきにして圓なるをいふ 梁と粟との總名也 ○中 倭名鈔に 唐韻本草崔禹錫食
經等を引て 粟は禾子也 アハといふ ○中 梁は苞粟アハノウルシネ 白梁米一名圓米と註したり
此説の如きは アハといふもの 一名にして二物なりと見えたり 廣韻に 粟は禾子也といひしは
我國にしてアハと云ひしもの 事をいひしにはあらず 彼國の古にありて 凡穀米の穀あるも
のを皆稱して粟といひ また其苗より實に至るまで 皆稱して禾といひければ 粟は禾子とはい